

# Nihongo Network News

2003.3.14発行

No.41

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4



## 文化庁 「国内の日本語教育の概況」と ボランティア・学習者

我が国に在留する外国人の日本語学習者の増加と学習目的の多様化に適切に対応した日本語教育の展開が求められている中で、文化庁文化部国語課では、外国人に対する日本語教育を推進する基礎資料として「国内の日本語教育の概況」を取りまとめています。

本資料は夏の文化庁主催の「文化庁日本語教育大会」で配布されています。

今年度も「平成14年度日本語教育実態調査について（依頼）」が日本語教育の機関・施設に配布されました。

TNVNでは本調査が日本語ボランティア教室で活動をする立場からすると、ボランティア教室の実態が十分反映されないと感じ、今回TNVNの会員団体に本調査に関しアンケートを送り回答状況と意見を求めました。

以下平成13年度「国内の日本語教育の概況」から日本語ボランティアの位置付けを眺め、「平成14年度日本語教育実態調査」に関するアンケートからの意見を纏めました。

### 平成13年度 「国内の日本語教育の概況」

調査票送付機関数：3,270、

有効回答数：2,930、

有効回答率：89.6%

となり、これから外国人に対する日本語教育の現状と日本語教員養成の現状を知ることが出来ます。

日本語教育の機関・施設は①大学等の研究科・学部等と②一般の日本語教育実施機関・施設に大別されています。それぞれの教員数、学習者数を①、②に分けて見ると

機関・施設数

①…633 ②…957 計1,590

教員数

①…3,975 ②…20,378 計24,353

学習者数

①…35,737 ②…96,832 計132,569

となっています。

教員数のうちボランティア等が12,853（52.8%）と過半数を占め、ボランティアが活動する機関・施設は任意団体（42.8%）、財団法人・社団法人（32.2%）・地方公共団体

（13.7%）の順で大学等はゼロです。

学習者の学習の場は任意団体26,031（19.6%）、株式会社・有限会社26,281（19.8%）、財団法人17,187（13.0%）で大学の30,934（23.3%）に次いでいます。

「地域の居住者」の学習者36,505（27.5%）に対してボランティア等の11,069（86.1%）が対応しています。

次に日本語教員の最終学歴ではボランティア等は不明9,429（73.4%）、日本語教育以外の専攻で学部以外その他は3,106（24.2%）で、日本語教育関係学歴者は318（2.5%）と非常に少なくなっています。これは何を物語っているのでしょうか。（後記意見参照）一般の機関・施設で日本語教員養成課程で受講したボランティアは4,450（34.6%）です。

都道府県別ではボランティア等は東京都7,122（55.4%）、千葉県1,483（11.5%）、大阪府1,093（8.5%）、兵庫県1,041（8.1%）神奈川県1,031（8.0%）と都市部に集中しています。



この基礎資料からボランティアによる外国人学習者への日本語支援は地域の居住者を中心に幅広く行われていることを示しています。

## 「平成14年度日本語教育実態調査について(依頼)」が日本語教育施設・団体の長宛に平成14年12月2日に配送されました。

日本語教育実態調査(以下:本調査)は日本語教育に携わる幅広い施設・団体が対象になり、その中には地域で活動する「日本語ボランティア教室」「日本語ボランティアネットワーク」も多数含まれています。

今回本調査に関してTNVNの会員団体64中、メールアドレスを持つ団体43にアンケートを配信し、12団体から回答を貰いました。会員団体の2割ですが日本語ボランティア教室で活動するものの意見が出ていると考えます。

その結果は以下の通りです。

### 1 回答団体・教室…12

### 2 「実態調査」の配布

①有り…9、②なし…3

内1件:13年度に回答する内容がほとんどないと思われたので提出しませんでしたので今年は来ていません。

### 3 「実態調査」の回答

①する…7、②しない…5

### 4 「実態調査」を回答する。の場合

実態調査には以下の項目があります。

◎共通部分(施設・団体名、開催場所等)

◎[1]外国人に対する日本語教育についての調査

◎[2]日本語教員養成コース等についての調査

(1)回答記入は

共通と[1]…3、

共通のみ…2

すぐに返事し内容をはっきり覚えていない…2

(2)記入時に気づいた事・意見

\*一部(学歴、資格)は回答せず…2

◆講師の最終学歴は文化庁としては必要だろうが、ボランティア団体では学歴は聞かないので回答しにくかった。

◆ボランティアの学歴は学習支援に直接関係有りませんので確認していません。

### 5 平成14年度「実態調査」の回答をしない理由

◆配布されなかったから。

◆ボランティア日本語教室と日本語教育機関を同等に扱っているのだから、アンケートの趣旨がわからないから。(前回の例から)

◆12年度のときにボランティアグループの実態調査というより日本語学校などが対象と思われた。私たちのようなちいさいグループでは書きようがないように感じた。

◆過去、毎年同調査がきて昨年までは回答してきましたが、当クラブの活動に实际的、現実的な見かえりに相当する利害、効果に意義をもたない。

◆当会に該当する設問がないことと、従来も回答していないことが理由です。

### 6 平成14年度「実態調査」の方法についてのご意見は

◆日本語ボランティアの活動を地域の日本語支援という視点で調査するのであれば、アンケートの質問事項をそれにふさわしいものに変えなければならない。そのためには実際に日本語ボランティア活動にかかわって

いる者たちに助言を求めることが必要と考える。

◆文化庁の調査は私たちのような個人のボランティアを対象にしていないのではないのでしょうか。毎年、無意味なようですが、一応回答しています。日本語教師養成講座も西東京市で昨年からはまり、サークルから二人参加しました。後は個人でNHKのCTI420時間を受講したりしています。

◆日本教員養成状況調査のようでボランティア活動の調査では無いように感じている。

◆文化庁は最近地域の日本語教育、教室に目を向け始めたとはいえ、わたしたちのようなボランティア団体の活動の実態にまではまだまだ目が下りて来てないように思います。活動場所、活動資金、講師の再教育の機会など、また違った調査がなされ、支援がされるよう望みます。

◆ボランティアグループに関してはもうすこし違う形の調査が必要ではないか。実態報告のようなものが先生方の教育レベルを細かく問うよりずっと意義があるように思う。文化庁の調査は草の根的活動が大事といいながら、ボランティア活動の実態には関心ないように思われる。

以上貴重なご意見をいただきました。

調査が調査に終わらず、外国人に対する日本語教育を推進のための基礎資料が如何に活用されるのか、この辺を明らかにし具体的な方策・施策が講じられるモノであって欲しい。

地域で実際に活動している人達にとって、調査が大きな力となる事を求めています。

このためにも文化庁主催の「日本語支援コーディネータ研修」から地域の日本語ボランティア活動の学習者とその支援団体・支援者に実感のある関わりを持っていただけないだろうか。

(梶村 勝利)

# 「〇〇人」になる時

## 会話を手がかりに「日本人／外国人」という関係について考える

寄稿

お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科  
博士後期課程 国際日本学専攻

杉原 由美



私は2年程前から「多文化交流と対話の会」に参加しています。この会は、お茶の水女子大学大学院日本語教育コースの学生を含めた周辺地域住在外国籍住民と日本籍住民10名強をメンバーとする月1、2回の集まりです。多文化共生を模索するために、多様な言語的文化的背景を持った人々が、対等な立場で身近な問題を話し合い相互に学び合う場として始めた試みです。活動は、参加者のうち1名が自分の話したいことや考えたいことを話題として提起し、皆で意見交換を行うというもの。今まで「テレビの影響」「子供の教育」「主人という言葉」等々といった話題について話し合ってきました。

ある時、この会での会話が、「〇〇人」という立場で行われる時とそうでない時があることに気づき、「参加者は何をきっかけに『〇〇人』になるんだろう？」という疑問を抱いて会話を録音し文字にしてみました。すると、いつも何気なく交わしてきたやりとりの中で、どんな話題であっても「〇〇人」の立場を出現させるきっかけとして、主に2つの会話パターンがあることが分かりました。

1つ目のパターンは、「〇〇(国)ではどうですか？」という質問をきっかけとするものです。例えば、「みなさんの国でこんな習慣ありますか？」「中国ではどうですか？」「日本はテレビの検閲ないんですか？」などです。これらの質問が発せられた途端、不思議なほど、皆一生懸命に「〇〇人」になって答えようとする現象が見られました。そして、この「〇〇人」という立場でのやりとりは、そのほとんどが「日本人／外国人」という二項対立的な立場でのやりとりにつながっていて驚きました。一方で、「××さんはどう思いますか？」という質問に対しては、受け手が自由に話したい立場を選んでいました。これは、個人に焦点を当てた質問と言えるでしょう。

2つ目のパターンは、「△△ってわかりますか？」から始まる日本語の説明をきっかけとするものです。例えば「見栄って知ってます？」「身内って分かる？」などから始まり、「日本語は母語話者である日本人のものであり、正しい日本語がある」という前提のもとに行われる説明です。やりとりが支障なく進んでいる場合でも、突然この類いの日本語に関する説明が展開され、それによって「日本人／外国人」という立場が表面化する現象が見られました。しかしながら、昨今「正しい日本語」があるという考え方が問題にされ、「母語話者と非母語話者双方が意思疎通を成

立させるために歩み寄る日本語」という考え方が提起されているように、日本語の説明といえども「日本人」の特権である必要はないのです。例えば、「幼稚園児の母親」と「幼稚園について知らない者」という立場で会話が行われた場面では、日本語非母語話者によって「年長」「年少」という漢字表記が説明される例が見られたし、1人が言葉に詰まったとき母語話者からも非母語話者からも助け舟が出される例も見られました。このような場合、「日本人／外国人」という立場が表面化することはありませんでした。

さて私が驚いたのは、少ないケースではありますが、以上の「〇〇(国)ではどうですか？」や「△△ってわかりますか？」という2つの会話パターンが、相手を「〇〇人」「外国人」という立場に固定して自由な発言を阻む機能を果たしている例が見られたことです。つまり会話の中で、日本に古参者として暮らす「日本人」が、新参者である「外国人」をルールに適應すべき人もしくは部外者という立場に置いて、力を行使する現象が起こっていたのです。それは、何気なく耳を通りすぎてしまう会話の中で、特別に意識されることなく起こっていました。

私は、「〇〇人」「日本人」「外国人」という立場が固定化されて現れることは問題ではないかと考えるようになりました。「〇〇人」という立場は一見ニュートラルに見えますが「日本人／外国人」という二項対立的な関係につながっており、さらにその一部は力関係を生じさせていました。私は、自分が日本国籍で日本語母語話者の両親のもとで育って日本で暮らしている中で、他の言語的文化的背景を持つ人々との接触を楽観的にのみ捉えていたことを反省しました。

私達は誰もが多様なアイデンティティを持っています。「日本人」「外国人」「〇〇人」というアイデンティティばかりが固定化されて現れるのではなく、1人1人の様々な面(例えば「親」だったり「女性」だったり、「妻」、「娘」、「元看護婦」、「料理愛好家」……)が現れるような場を創っていくことが、参加者間の多様で豊かな関係を創っていくことにつながり、多文化の共生を足元から築いていくことになると思います。本稿が、地域の日本語活動に携わる方にとって、例えば日本語教室での「おしゃべり」など日々の自分の言語行動について、立ち止まって考えてみる機会になれば幸いです。 MAIL : sugihara@dj8.so-net.ne.jp

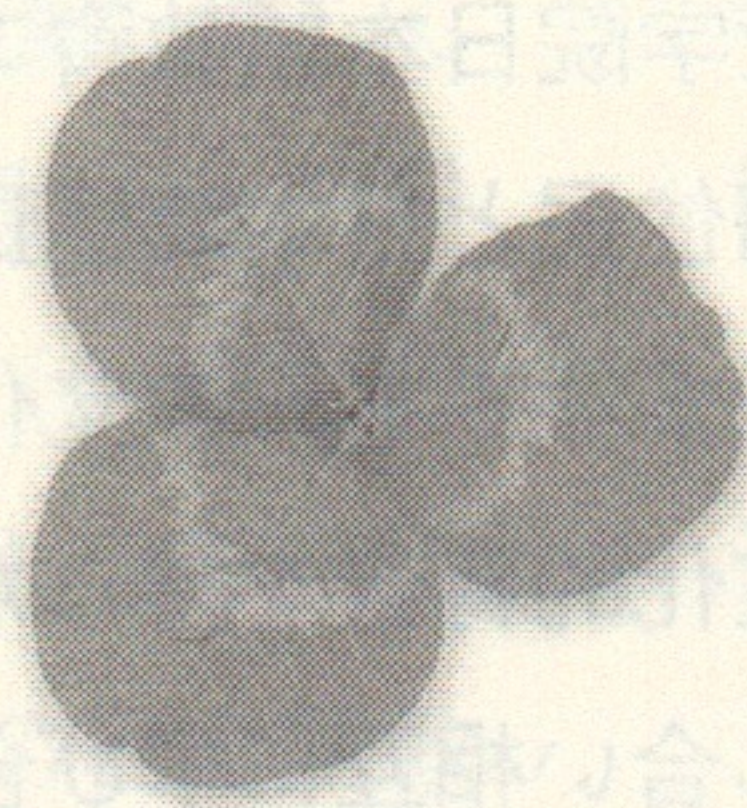
# 東海日本語ネットワーク

事務局 〒450-8799 名古屋市中央郵便局駅前分室局留  
<http://tnnwk.hp.infoseek.co.jp/>

愛知県名古屋市の官庁街にある「あいち国際プラザ」の「日本語教育リソースルーム」で、東海日本語ネットワーク代表の米勢治子さんにお話を伺いました。荘重な石造りのビルの中、対照的に小さいながらもアットホームで、日本語関連の書籍や教材がところせましと置いてある居心地のいい部屋です。これから学習者と勉強するというボランティアの方が教材の準備をしています。このビルの中でもボランティア日本語教室が活動しているとのことでした。

東海日本語ネットワークは、1993年12月、国立国語研究所が名古屋国際センターにおいて開催したシンポジウム「地域の外国人と日本語」をきっかけとして、ネットワーク設立準備会が生まれ、1994年6月に正式に発足しました。東海地域一愛知県、岐阜県、三重県、静岡県に在住する外国人の日本語学習を支援している個人、団体による情報交換、共同学習を促進するためのネットワークです。

日常的な業務は、10～15名の役員、準役員が担当



し、ネットワークの活動全般については年1回の総会で協議します。毎月第2土曜日に、名古屋国際センターの共催を得て、地域の日本語教育に関連したテーマで話し合う「交流会」や、講師を招いて「お話を聞く会」を公開研修の場として提供しています。また、引き続き開催される運営協議会では、協議員を中心に一般会員も自由に参加して、日常活動について話し合ったり、情報交換をしたりしています。

その他の活動として、「東海日本語ネットワークニュース」(年3回)の発行、講演会、シンポジウムの開催、東海各地の日本語教室の現状等についてのアンケートの実施、ホームページによる情報提供、活動報告書の作成・発行など行っています。

さらに、2年余前に愛知県国際交流協会があいち国際プラザにオープンした日本語教育リソースルームの運営に協力しています。火曜日と土曜日の午後にかかれるこのリソースルームは、日本語ボランティアや日本語教育を勉強している人たちのような、日本語教育に関係

## BULLETIN BOARD

### 調査協力者募集中

(無料でOPIを実施します)

お茶の水女子大学院生の菅谷と申します。現在、博士論文の調査を行っていますが、調査に協力して下さる方を探しております。募集しているのは、母語が英語、ドイツ語、ロシア語の日本語学習者の方です。◎調査は60～90分程度かかり、以下の内容です。

- ① OPI (Oral Proficiency Interview) ... ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages) の基準に基づく外国語の口頭能力測定インタ

ビューです。

- ② 絵の描写課題  
 ③ 文法テスト

調査に協力して下さった方には、以下を差し上げています。

- ◎OPIインタビューによるレベル判定  
 ◎日本語に対するフィードバック(日本語力を伸ばすためのアドバイスをします)  
 ◎OPIインタビューの録音テープ  
 ◎謝金(1000円)

どうか、心当たりのある方、声をかけていただければ幸いです。

お茶の水女子大学大学院

菅谷 奈津恵 jfreetest@hotmail.com

### 日本語ボランティア募集

小平市国際交流会で日本語ボランティアを募集しています。

◆場所：西武多摩湖線

一橋学園駅徒歩5分

◆日時：土曜日

午前9:50～12:10

◆交通費：1,000円支給

◆条件：日本語教師養成講座420時間修了者または経験者

◆問い合わせ

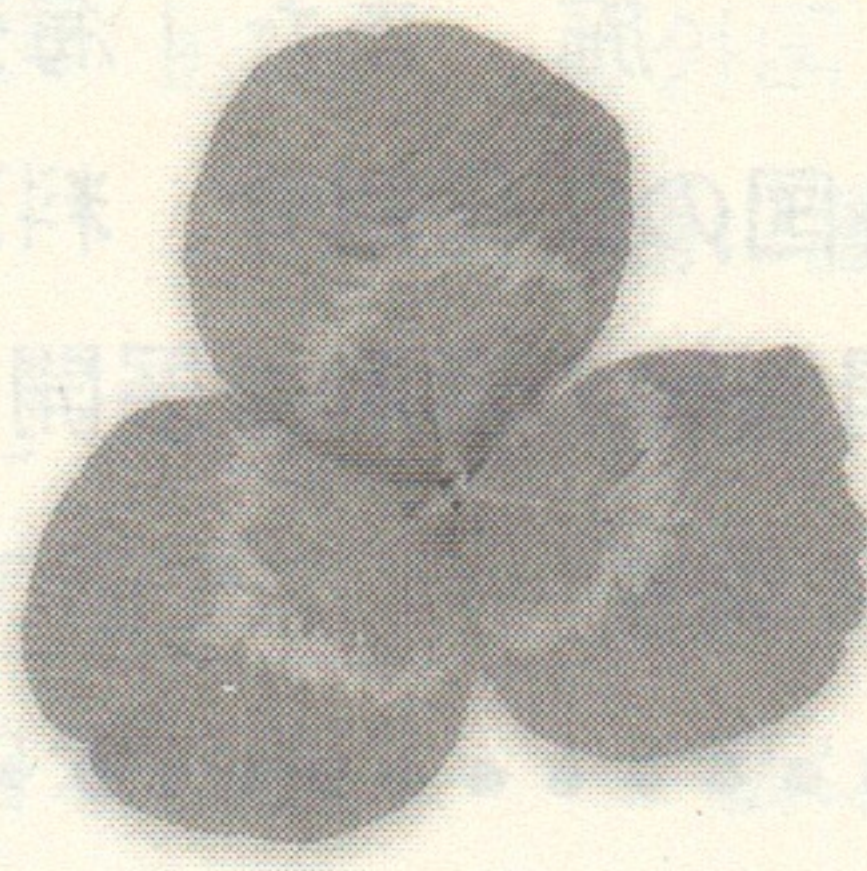
定住外国人支援ネットワーク(小平) 山崎 (TEL/FAX: 042-345-6358)



ある人々だけでなく、国際交流に関心のある人や、学校で外国人児童生徒と関わっている先生がたも利用しています。運営ボランティアは、これら来室者の方々に利用しやすいように検討を重ね、分類や配列に配慮し、個別に対応しています。また、月に一度公開勉強会を開いています。

その後、米勢さんの車で約1時間、保見団地に連れていっていただきました。ビルも家並みも見えなくなって、山地に入ったかと思うまもなく、忽然と巨大団地群が現れました。団地の中に入っていくと、標識にポルトガル語が併記されています。駐車場に車を止めると、前には「アミーゴス」という小型スーパーがあり、出入りする人たちの姿を見ても外国に来たかと錯覚するほどです。

豊田市北西部にある保見団地には、約1万人が住んでいるそうですが、そのうち4割近くが日系ブラジル人をはじめとする外国籍の人々です。この人々の多くは、仕事場には会社の送迎車で通い、



「アミーゴス」で母国の食品を買い、日本語が話せなくてもあまり困らないようです。

この団地で活動するNPO法人保見ヶ丘国際交流センター代表の楓原和子さん、NPO法人子どもの国代表井村美穂さんたちのお話を聞きました。NPO法人子どもの国は、子どもたちの放課後学習支援のための「ゆめの木教室」を開催しています。また、昨年11月から文化庁委嘱事業親子参加型日本語教室「ふれあい家族教室」を開いています。子どもと一緒に活動する中でお母さんにも日本語を勉強してもらおうという試みですが、開催日の土曜日は働いているお母さんたちにとって貴重な家事、買物デーとみえ、集まりが悪いとのことでした。地域の公立小中学校に通う外国籍子どもたちも多く、問題がないわけではありませんが、不登校、不就学など、さまざまな理由で居場所のない子どもたちの存在がボランティアの方たちの一番気がかりなことのようなのでした。

**平成14年度  
国立国語研究所日本語教育  
短期研修（第6回）**

地域における日本語学習支援  
—視聴覚教材利用の可能性—  
(第6回視聴覚教材フォーラム)

- ◆日時：2003年3月21日（金、祝）  
～23日（日）
- ◆場所：国立国語研究所講堂他  
東京都北区西が丘3-9-14
- ◆参加費：無料
- ◆プログラム

3月21日（金、祝）

10：00～12：35 講演会〈来聴自由〉

◎講演1

山田 泉氏（大阪大学留学生センター）  
地域社会における言語的マイノリティ  
—問題と日本語教育

◎講演2

竹内 理氏（関西大学大学院外国語教育研究科）  
外国語教育における視覚教材の利用：  
理論と実証データからの眺め

13：30～17：00

ワークショップ〈以下、申し込み制〉

「映像教材を使った学習活動（1）」

- 足立 祐子（新潟大学）
- 松岡 洋子（岩手大学）
- 金田 智子（国立国語研究所）

3月22日（土）

10：00～17：00 ワークショップ  
「映像教材を使った学習活動（2）」

3月23日（日）

0：00～15：00 ワークショップ  
「映像教材を使った学習活動（3）」

注：ワークショップは2003年2月18日に  
締め切られています。

◆問い合わせ

国立国語研究所 日本語教育部門  
研修事務室

E-mail: tanken@kokken.go.jp

TEL:03-5993-7667

FAX:03-3900-6559

# Nice to Meet You

## 日本語教室発足以来の学習者 延べ出席人数は15,000名を数えます 日野国際友好クラブ

中村 静雄



▲イヤーエンドパーティー

日野国際友好クラブは1992年10月、日野市在住・在勤の外国の方達との交流・親善を図り、暮らしやすい街づくりをめざすボランティア団体として発足し、昨年10月設立10周年を迎えました。

設立の翌月、できるだけ多くの方達

が生活に役立つ日本語を楽しく学ぶことができるようにと、日野市公民館との共催（94年に公民館からの委託事業となる）による「外国人のための日本語教室」がスタートいたしました。

その後クラブの会報「SMALL WORLD」の発行、外国の方達と日本人・会員相互の交流を深める場として「ふれあい広場」をスタート、料理教室・小旅行・イベント等を企画・実施、また「海外部会」による諸外国の文化紹介、料理・お菓子教室の開催等の活動を展開してまいりました。



▲バーベキューパーティー

## 教科書にない日本語を学ぶ、 ほっとした場所 弥生日本語の会

大久保 澄子 e-mail BZL14711@nifty.ne.jp

毎週火曜日10時から12時、文京区の向丘生涯学習館の2階はワイワイがやがやと騒々しく、時には階下にも声が響きます。それぞれが一生懸命に話すので、自然と声も大きくなるのです。もう少し部屋が広かったらお互いにゆったりと話せるのではとも思いますが、聞き取りづらい分必死に聞きそして話す、それがかえっていいのかもしれませんが。11時半になると、当番の「お茶で〜す。」の一言で、全員が集まり歓談。同じ国の人との情報交換が始まったり、

お互いの国の文化や習慣を紹介しあったり、季節の行事の話で盛り上がったりと、国もレベルも関係なく、またあちこちで会話がはずみます。

「教科書にはない日本語を学ぶ」これが会のキャッチフレーズです。ある人が「この教室でとても日本語が上手になりました。」といってくれました。「なんでもとにかく話してみましよう。さあ、弥生は練習台！」言いたい事を伝える時、文法の正しい言葉で話すよりも心が通うこと、それには仲良くなること、これが大切だとみんなが感じています。「日本語を教えるとかではなく、あの人とはどうやって話題を共有できるのか」それが弥生のミーティングなのです。現在ボランティア14名、雪の日も嵐の日も来

さらに、98年からは毎年日本語講師養成講座を主催いたしております。

現在日本語教室は水曜午前・水曜夜・金曜夜の3教室を開講、会員約100名中講師として活動しているボランティアは約50名、学習者は95名を数えます。学習者の内女性は70名、学習者の出身国は中国・韓国・フィリピン・インドネシア・タイ・ペルーなど計18ヶ国に及んでおります。

学習者の日本語レベルは、かなりの水準の人から、ほとんど話すことができない人まで マチマチです。したがって同程度の水準の人達を一つのグループとしており、金曜夜教室の場合は現在6段階のグループに分かれております。日本語教室発足以来の学習者の延べ出席人数は15,000名を数えるほどとなり、国際親善上大きな成果をあげているものと考えております。

外国の方達が当クラブの日本語教室をはじめとする諸活動を通して「日本」への理解を深め、親睦が大きな輪となって世界中に広がって行くことを願っている次第であります。

てくれる学習者を暖かく迎えます。“ほっとする場所” 学習者にもボランティアにもそう思える会を目指しています。

弥生日本語の会～会則はあって無いがごとく、自由な会の運営はともするといい加減になりがちですが、会員それぞれの分担が暗黙のうちにできており、自分の仕事をこなしています。活動9年目！これからどんな会にするか、学習者も交えて話し合えたらいいと思います。



# 別れは再会の始まり

朴珍容 / 韓国  
練馬区にほんご友好

## 学習者の声

つかは悲しくても必ず別れる時がやってくるのです。

けれども今の胸いっぱいの暖かい気持ちや、美しい思い出をいつまでも大切にします。なぜなら、再び出会う時が必ずやってくるからです。

大事な人たちと離れるのは確かに心痛いことですが、日本の国、そしてお世話になった方たちのことを絶対忘れません。そうすればいつの日か“会者定離”は必ず“定離会者”（造語）になれる、と信じています。

私はまもなく日本を去りますが、再会を楽しみにこの気持ちをいつまでも持ちつづけることでしょう。

仏教に“劫”<sup>こう</sup>という言葉があります。気の遠くなるほど長い時間の単位あるいは期間を表しています。私がこの言葉に興味をもったのは、人は日常で何気なくすれ違う、見知らぬ人とも幾千の劫を通して結ばれ続けてきた縁があると言われていたことです。

私は祖国韓国で日本語を学び、もっと日本と日本語を知りたくて来日1年半。ここでも多くの人と知り合いました。これは私たち凡人には及びもしない全知全能の神様から準備していただいた因縁かも知れません。

しかし、“会者定離”<sup>えしゃじょうり</sup>（これも仏教の言葉。会う者は必ずいつかは別れる。という意味）というのもひとつの真理！

“劫”を通して知り合った多くの人々とい

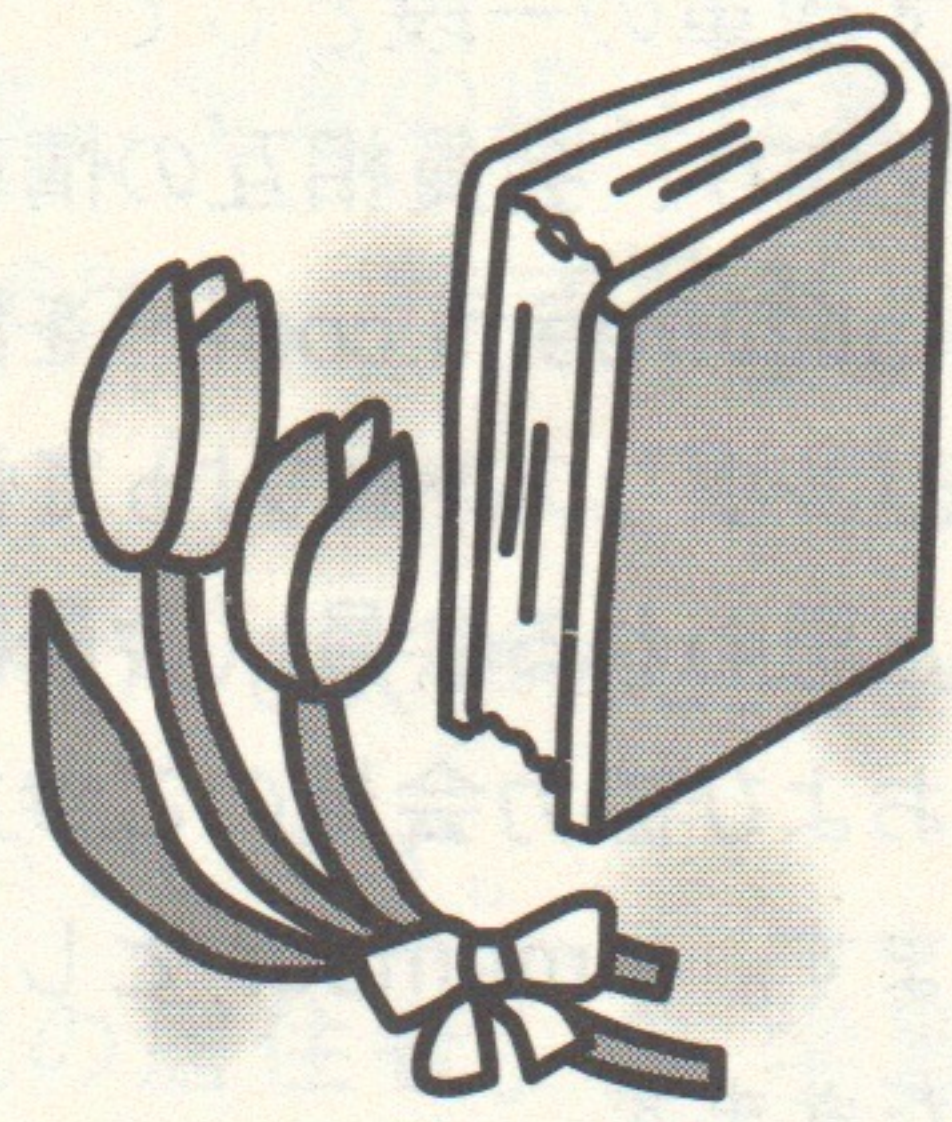
## 学習者の声

私は日本は初めてです。来るまえには国が違うからちょっと恐かったです。

しかし、来てみて、環境も同じだし、ひとびとも親切だし、空気もいいし、生活環境がとても便利でした。それで、日本人はつましい生活をする人が多いと思います。水がたくさんあって、きれいなまちをじてんしゃではしるときは、ほんとうに気持ちがいいです。

日本語をよく話せるようになると、日本人のともだちがほしいです。日本語の会に入ってきて、みんなと先生とあいますから、嬉しいです。

日本語だけでなく、日本人のいいことを同じように教えてください。



# 私の日本の生活

金賢善 / 韓国

江戸川区  
EJJE 江戸川にほん語交流会

「日本人なんだから、日本語くらい教えられるかな…」今振り返ると、何と大胆で恥ずかしいことを思いついてしまったのだろう。しかし、始めてしまったからには後に戻れず。あっという間に月日は流れ、生徒さんはどんどん上達し、教える側の私の進歩はほとんど見られず。講習会に出ても、先輩のアドバイスを聞いても、いつも頭の中は「…?」。お国も環境も年齢も違う生徒さん一人ひとりにどうやって私の貧しい知識を伝授して行けばいいのやら、とにかくわからないことばかり。加えて、この不安を生徒さんの前でどう隠すかまでもが私に課せられた問題と化してしまうのだから、私の頭はもう大混乱。

そこで最近思いついたことは…私に出来ることをやればいい。私だから出来ること

がきっとある。「日本語を教える」ということだけにこだわらず、生徒さんの話し相手や相談相手、はたまた一緒に笑い、とにかく楽しい時間を作ること。週に1回、日本語教室へ来ることが楽しみになるような時間の演出をしよう。私が担当している生徒さんは初級の方が多いので、日本語の勉強をするためにはまず、日本での生活を楽しんでいることが大事と考えたのです。楽しければ日本語だってもっと上手になりたいと思うはず。強引でしょうか？それともこれってダメな教師の言い逃れ？

そんな矢先、日本人と結婚し、在日半年足らずの生徒さんが、別の生徒さん（在日5年）の家へ遊びに行ったことを嬉しそうに話してくれた。彼女の笑顔を見て、何かとても良いことをしたような（私は何もしていないのだけれど）、幸せな気持ちになりました。

## ボランティアの声

教わる人も教える人も、楽しくなければ続かない

小泉かおる

やさしい日本語（江東区）

**東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局**

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックスNo.4

TEL : 03-3235-1171  
(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

URL : <http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/>

MAIL ID : [tnvn@t3.rim.or.jp](mailto:tnvn@t3.rim.or.jp)

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時：毎週金曜日

第1,第3,第5金曜日 午後2時～4時  
第2,第4金曜日 午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

**●会員のメーリングリストを  
作りました**

「活動する一人一人のためのネットワーク」を目指す改革の一段として、メーリングリストを作り、会員相互の情報交換の場 (tnvn-all@freeml.com) を設けました。メーリングリストに入って情報を共有したいと思われる会員 (会員団体のメンバー) および協力会員のご参加をお待ちしています。e-member として登録させていただきます。

◆申し込み・質問は

ML ID : [tnvn@t3.rim.or.jp](mailto:tnvn@t3.rim.or.jp) まで

**●日本語ボランティア入門講習会**

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回 (4ヶ月)

◆テーマ

- (3月) 日本語ボランティアとは?
- (4月) 日本語再発見
- (5月) 学習者はどんな人たちか?
- (6月) 日本語学習をどのように支援しているか?

◆日時

- 3月14日 (金) 午後2:00～4:00
- 3月28日 (金) 午後6:00～8:00
- 4月11日 (金) 午後2:00～4:00
- 4月25日 (金) 午後6:00～8:00
- 5月 9日 (金) 午後2:00～4:00
- 5月23日 (金) 午後6:00～8:00
- 6月13日 (金) 午後2:00～4:00
- 6月27日 (金) 午後6:00～8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター  
飯田橋セントラルプラザ10階会議室  
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費

1回600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしください。

**●日本語ボランティア相談窓口**

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがおこたえします。電話またはE-mailでご確認の上、お気軽におこしください。

**●TNVNへの入会を希望する方は**

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)  
＜入会手続＞申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。E-mailでも申し込めます。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費/正会員：年会費3,000円

協力会員：年会費2,000円

賛助会員：年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク  
(通信欄に『年会費』と記入)

**●連絡先の変更等は郵便かFAXで**

団体の代表・連絡先 (TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXまたはE-mailでお知らせ下さい。

**韓国の結婚式に  
参加して**

暮れも押し詰まった12月27日、結婚式に招かれ韓国に行った。5年前の春は9名のボランティアが参加出来たが今回は年末という事で、それでも4名が楽しんで来た。式そのものは20～30分位である。(新郎側は青系の、新婦側は赤系のチマ=民族服のスカート=を着た) 両家の母親が入場し、参会者の前で相互の挨拶を交わし、壇上のローソクに灯を点す事から始まる。司式者(日本での仲人に当たる人)により両人の紹介・誓約・はなむけの言葉と進行し、新郎新婦が両親へ最敬礼し参会者へも深いお辞儀をして終わる。その後は記念撮影となるが、途中で退席する人や冬はコートを着たまま参加し

ている人がいた事に驚いた。あとで分かったのだが式後、参会者には食事が準備されていて食堂に移動し、それぞれがセットされている時はそれを、バイキング形式の時はそれなりにお互いの情報交換をしながら済ませ、三三五五帰路に着く為、混み合わないうちに食事を済ませ片付けの手伝いをする友人達が早めに退席していたのだった。このように二人の門出を純粋に祝おうと、多くの人気が気軽に参加できる。結婚式も素晴らしいと思った。一方、皆が食事している間、新郎新婦と新郎側の親族には民族衣装を着けた伝統的な儀式がある。両親を始め親族の年長者に対し順に深々と床にひれ伏すお辞儀をし、はなむけの言葉を受ける。礼に始まり礼に終わる韓国の結婚式を目の当たりにし、感動したのは私だけではなかったろう。(K.Y.)

**SPECIAL THANKS**

★杉原 由美様  
(お茶の水女子大学大学院)  
快く執筆いただきました。

**新入会員のご紹介**

★協力会員

柳沢 佐智子様、西岡 暉純様

\* 2003年2月15日現在の会員数

◎正会員 63団体 ◎協力会員 93名

◎賛助会員 4団体



●編集/大久保 澄子,岡田 美奈子,  
梶村 勝利,木村 茂,床呂 英一,  
林川 玲子,山本 敬子

●レイアウト/鶴田 環恵